

大分県長期漁海況予報

〔令和8(2026)年1月～6月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部

879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

Phone 0972-32-2155 Fax. 0972-32-2156 <https://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

海況経過<令和7年7月～令和7年12月>

■黒潮

- ・都井岬沖では、7月～9月は離岸傾向、10月以降は接岸傾向で推移しました。
- ・足摺岬沖では、7月～8月上旬は「著しく離岸」、8月中旬は「接岸」で推移しました。
- ・7月～11月中旬にかけてC型基調で推移し、その後はB型流路となりました。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、8月は「やや低め」、9月、12月は「平年並」、10月は「やや高め」、11月は「高め」で推移しました(図1)。

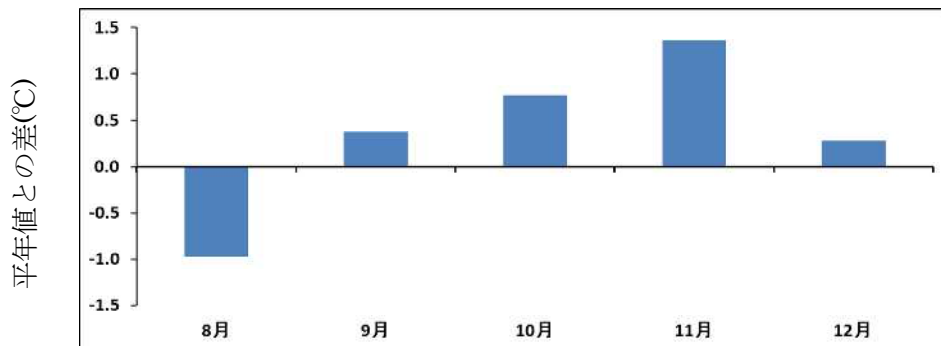


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、8～12月は「平年並」で推移しました(図2)。

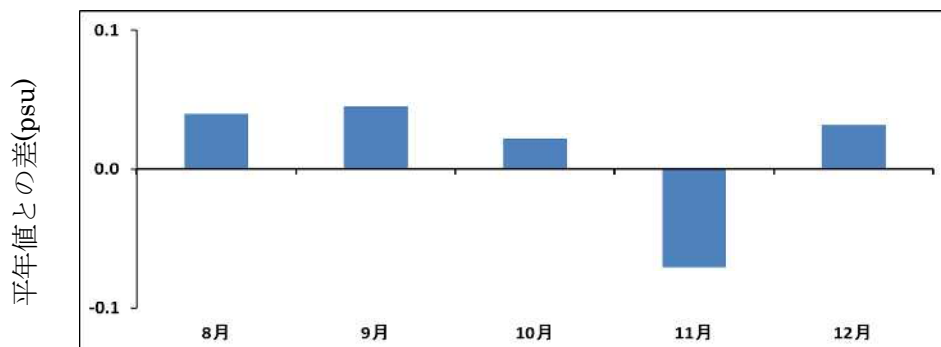


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

今後の海況の見通し＜2026年1月～6月＞

■黒潮

- ・都井岬沖では、2月中旬～3月上旬および4月～5月上旬に離岸傾向となるでしょう。
- ・足摺岬沖では、接岸傾向で推移するものの、小蛇行の東進に伴い一時的に離岸傾向となるでしょう。
- ・潮岬以東では、黒潮は3月までC型基調で推移し、その後はN型基調となるでしょう。

■沿岸水温

沿岸水温は、「平年並」～「高め」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

- ・黒潮流路予測は、2025年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所および関係都道府県:2025)を参考にしました。
- ・沿岸水温は、2025年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報と、福岡管区気象台の「九州北部地方3か月予報」(2026年1月20日発表)を参考にしました(沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられているため)。

2月 「低め30%、平年並40%、高め40%」

3月 「低め20%、平年並40%、高め40%」

4月 「低め10%、平年並30%、高め60%」

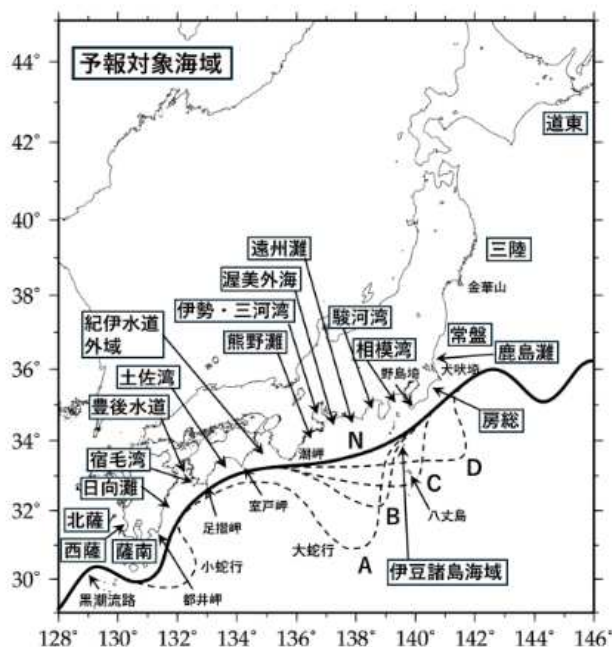


図3 黒潮流型の分類

※上図は太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報
(水産研究・教育機構プレスリリース資料)より引用

■マイワシ

□2025年7月～11月の漁況経過

2025年7月～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの水揚量は5,834トンで、前年比520.7%、平年比280.2%(1986年～2024年の平年値)と、前年・平年を上回りました。水揚げの主体は被鱗体長^(用語解説①)13.0cm～15.0cm前後であり、7月初めには20.0cm以上が漁獲されました。

なお、近隣海域^(用語解説②)では、宮崎県は前年の917%、愛媛県は前年の668%、高知県は前年の446%の水揚量となっています(各県、7月～11月の前年比)。

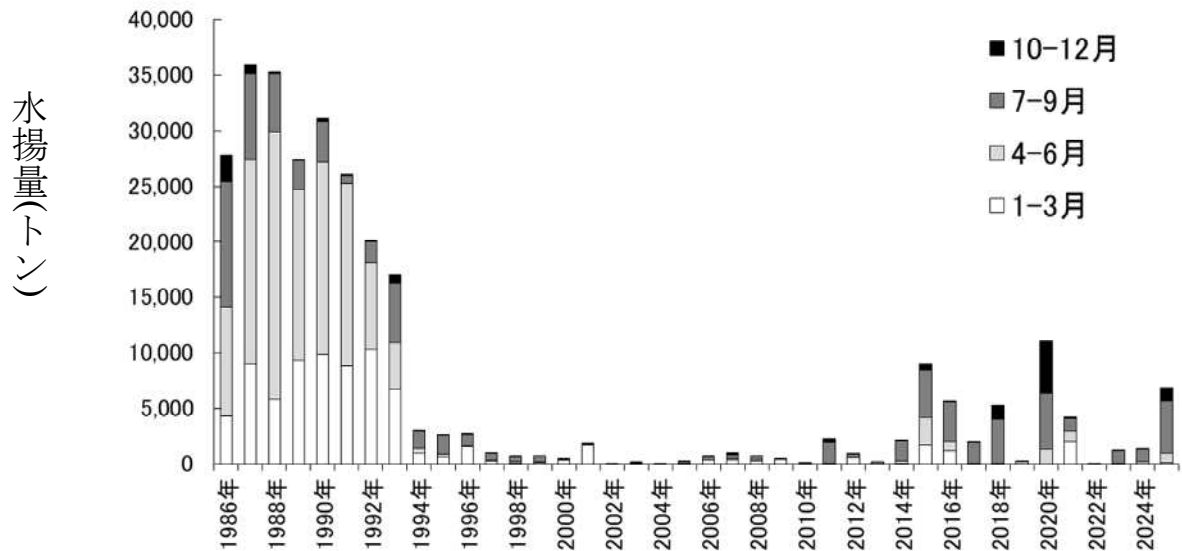


図4 まき網によるマイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

※2025年は11月まで

今後の見通し<2026年1月～6月>

□来遊量

豊後水道南部への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2025年1月～6月:940トン)

□水揚げ対象年級群および体長

1月～3月は被鱗体長15cm～20cm前後の1歳魚～2歳(2024～2025年級群)以上が主体となり、4～6月は被鱗体長7～12cm前後の0歳魚(2026年級群)主体となるでしょう。

【説明】

1月～3月は1歳魚(2025年級群)が水揚げの主体となるでしょう。4月以降に水揚げされる0歳魚(2026年級群)の来遊水準について現段階では不明ですが、2025年級群が水揚げの主体であった2025年7～11月のまき網水揚げ量が前年を上回ったことから、来遊水準は前年を上回ると予測されます。

■カタクチイワシ(成魚)

□2025年7月～11月の漁況経過

2025年7月～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの水揚げ量は40トンで、前年比36%、平年比3%(1986年～2024年の平均値)と、前年・平年を下回りました。水揚げの主体は、被鱗体長7.0cm～9.0cm、12.0cm～13.5cm前後の0歳魚(2025年級群)と1歳魚(2024年級群)でした。

なお、宮崎県では前年の16%、愛媛県では前年の27%、高知県では前年の1%の水揚げ量となっています(各県、7月～11月の前年比)。

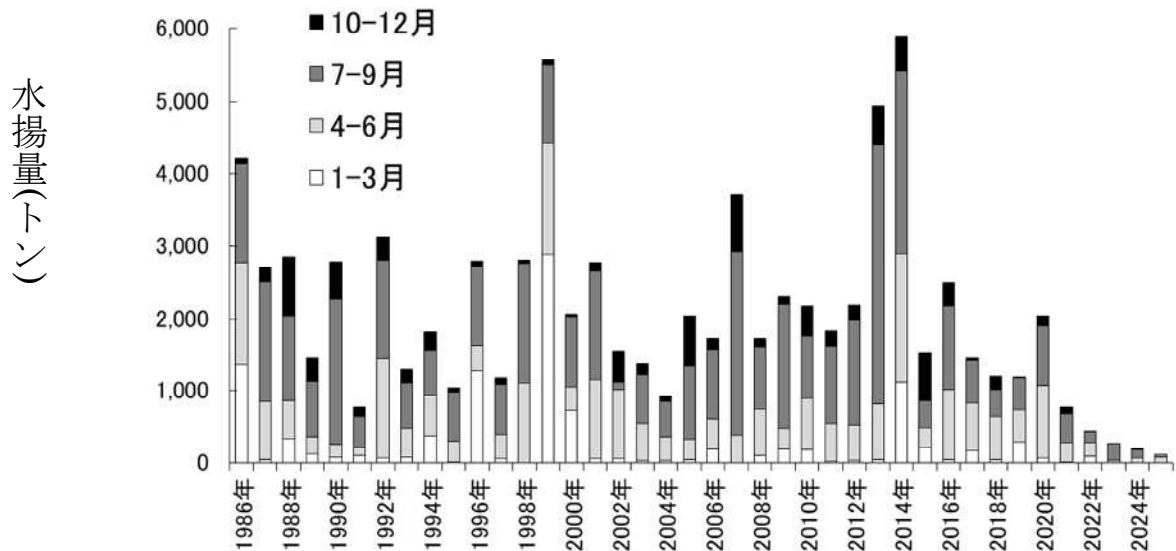


図5 まき網によるカタクチイワシの水揚げ量(鶴見・米水津・蒲江支店)

※2025年は11月まで

今後の見通し<2026年1月～6月>

□来遊量

豊後水道南部への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2025年1月～6月:83トン)

□水揚げ対象年級群および体長

1月～6月は0～1歳魚(2025～2026年級群)が水揚げの主体となるでしょう。

【説明】

2025年7月～11月の水揚げの主体は0歳魚(2025年級群)であり、2026年はこれらの個体が1歳魚となり漁獲されるでしょう。2026年級群の来遊水準について現段階では不明ですが、2025年級群が水揚げの主体であった2025年7～11月のまき網水揚げ量が前年を下回ったことから来遊水準は前年を下回ると予測されます。

■ウルメイワシ

□2025年7月～11月の漁況経過

2025年7月～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの水揚げ量は698トンで、前年比50%、平年比66%(1986年～2024年の平均値)と、前年・平年を下回りました。水揚げの主体は被鱗体長11.5cm～14.0cm前後でした。

なお、宮崎県では前年の127%、愛媛県では前年の139%、高知県では前年の188%の水揚げ量となっています(各県、7月～11月の前年比)。

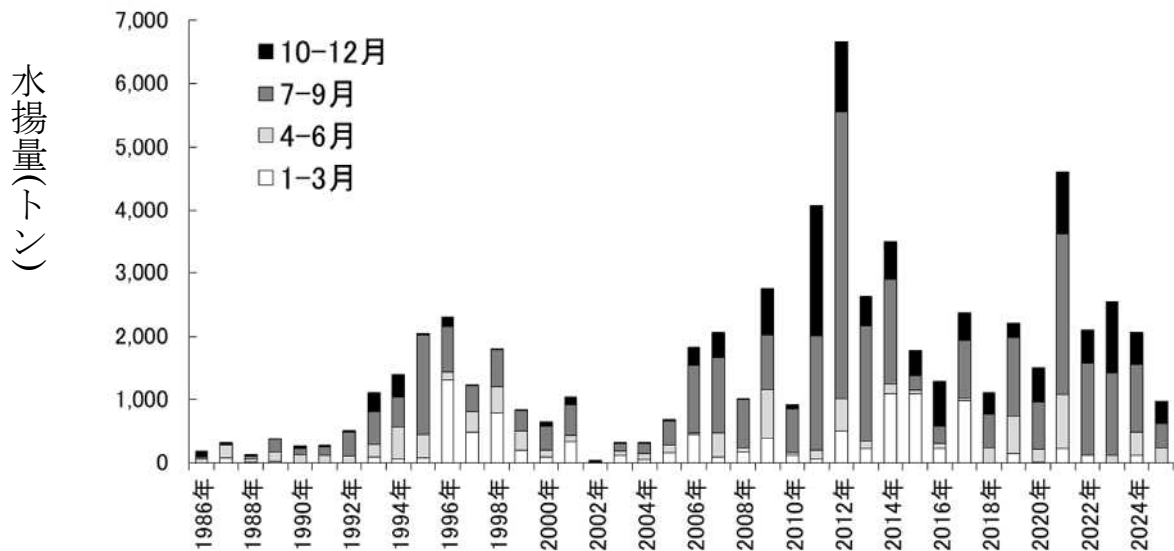


図6 まき網によるウルメイワシの水揚げ量(鶴見・米水津・蒲江支店)

※2025年は11月まで

今後の見通し<2026年1月～6月>

□来遊量

豊後水道南部への来遊量は前年を下回るでしょう。(2025年1月～6月:241トン)

□水揚げ対象年級群および体長

1月～3月は被鱗体長15.0cm～20.0cm前後の1歳魚(2025年級群)が主体となり、4月～6月は被鱗体長10.0cm前後の0歳魚(2026年級群)が主体となるでしょう。

【説明】

2025年7月～11月の水揚げの主体は0歳魚(2025年級群)であり、2026年はこれらの個体が1歳魚となり漁獲される可能性があります。2026年級群の来遊水準について現段階では不明ですが、2025年級群が水揚げの主体であった2025年7～11月のまき網水揚げ量が前年を下回ったため、来遊水準は前年を下回ると予測されます。

■マアジ

□2025年7月～11月の漁況経過

2025年7月～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの水揚げ量は86トンで、前年比37%、平年比7%(1986年～2024年の平均値)と前年・平年を下回りました。水揚げの主体は尾叉長^(用語解説③)13.0cm～15.0cm前後でした。

なお、宮崎県では前年の61%、愛媛県では前年の63%、高知県では銘柄「あじ」が前年の377%で、銘柄「ぜんご」が前年の37%の水揚げ量となっています(各県、7月～11月の前年比)。

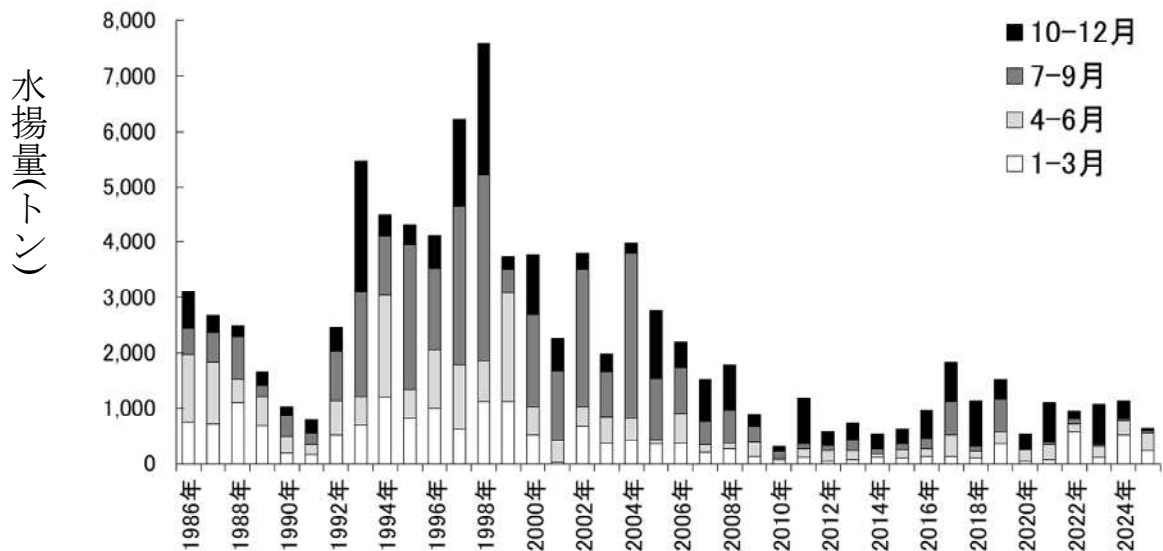


図8 まき網によるマアジの水揚げ量(鶴見・米水津・蒲江支店)

※2025年は11月まで

今後の見通し<2026年1月～6月>

□来遊量

豊後水道南部への来遊量は前年を下回るでしょう。(2025年1月～6月:558トン)

□水揚げ対象年級群及び体長

尾叉長15.0cm前後の1歳魚(2025年級群)が主体となり、20.0cm以上の個体が混じるでしょう。

【説明】

2026年は2025年7月～11月に水揚げされた0歳魚(2025年級群)が1歳魚となり漁獲される可能性があり、この2025年級群が水揚げの主体であった2025年7月～11月のまき網水揚げ量は前年を下回りました。このことから、来遊水準は前年を下回ると予測されます。

■サバ類

□2025年7月～11月の漁況経過

2025年7月～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の水揚げ量は17トンで、前年比35%、平年比1%(1986年～2024年の平均値)と、前年・平年を下回りました。水揚げの主体は、尾叉長20.0cm～22.5cm前後のマサバとゴマサバでした。

なお、宮崎県では前年の14%、愛媛県では前年の185%、高知県では前年の25%の水揚げ量となっています(各県、7～11月の前年比)。

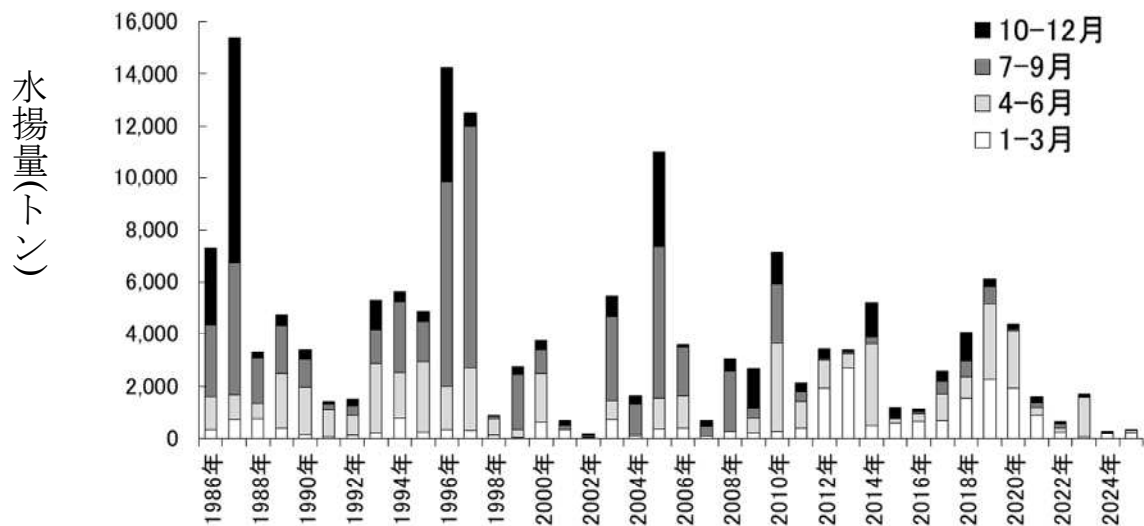


図9 まき網によるサバ類(マサバ・ゴマサバ)水揚げ量(鶴見・米水津・蒲江支店)

※2025年は11月まで

今後の見通し<2026年1月～6月>

□来遊量

豊後水道南部への来遊量は、前年並～下回るでしょう。(2025年1月～6月:326トン)

□水揚げ対象年級群および体長

1月～3月は尾叉長25.0cm～35.0cm前後のマサバ1歳魚(2025年級群)～3歳(2023年級群)以上が主体となるでしょう。5月以降はゴマサバも混獲されるでしょう。

【説明】

予測期間中は、25cm以上のマサバ1歳(2025年級群)以上が水揚げの主体となるでしょう。また、2025年1～11月のゴマサバ平均混獲率は約31.4%でした。近年、海況条件等の影響で本県へのマサバの来遊が低調であることを考慮し、来遊水準は前年並～下回ると予測されます。

その他

■予測の根拠および参考資料

予測は、国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所および関係都道府県による、「2025年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報会議」結果を基に、最新の情報を加味して行っています。

URL: <https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2025/index.html>

■用語解説

- ①被鱗体長：体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ②近隣海域：ここでは3県（宮崎県・愛媛県・高知県）の海域とし、高知県の水揚量の前年比は、宿毛湾における中型まき網によるものとししました。
- ③尾叉長：体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 資源増殖チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

電話:0972-32-2155

FAX:0972-32-2156